



## 人権教育月間に寄せて「風切る翼」というお話〈抜粋〉

(^o^)おはようございます。6月は人権教育月間ですので、「風切る翼」という木村裕一作のお話を読みますので、友だちについて考えてほしいと思います。



(^o^)**【あらすじ：夕暮れの時の一瞬のできごと。若い鶴の群れが、キツネにおそわれた。気がつくやうに、一羽の仲間の命が失われていた。だれの心にもあのとき、もっと早く逃げていけば・・・と、後悔がうずまいていた。「あのときだれかはばたいたよな」だれかが口を開いたのをきっかけに、皆は、クルルに対して厳しい言葉をぶつけて、責めてきた。「あのとき、はばたいたのは俺じゃない。」と言えずにクルルは黙って耐えるしかなかった。そのときからだれひとり、彼の味方はいなくなった。クルルはみんなと飛ぶことがつらくなってきて、とうとう飛べなくなっていた。冬が近づき、鶴の群れは、山脈を超えて、温かい草原へと渡っていく。やがて鶴の群れが、南に向**

かって飛んでいくのが見えた。そんな中、クルルの目に、南の空から舞い降りてくる一羽の鳥が見えた。それはカララだった。カララは何も言わずにクルルの隣に降り立った。ただじっと、隣にいて、南に渡っていく群れをいっしょに見つめていた。何日かたったとき、いきなり茂みからキツネが現れカララに飛びかかった。その瞬間、クルルはカララをつきとばすように羽ばたいた。カララはそれを合図に飛び上がった。気がつくやうに、クルルの体も空に舞い上がっていた。風を切る翼の音が、心地よいリズムで体いっぱい響き渡った。「渡れるぞ！」とクルルは思った。カララが振り向いて、「一緒に行ってくれるかい?」と言った。「もちろんさ！」クルルは少し照れて笑って見せた。クルルとカララは、最後の群れを追うように、南に向かった。翼を大きく羽ばたかせ、どこまでも、どこまでも・・・。】というお話です。



私は、このお話から、みんなに考えてもらいたいことがあります。心の中で自分に聞いてみてください。

〈一つ目、クルルはなぜ飛べなくなってしまったのでしょうか。〉そうです、仲間から陰口言われ、味方は誰一人いなくなり、カララにまで無視されたからです。

〈二つ目、カララは飛べなくなってしまうクルルをどんな気持ちで見ているのでしょうか。〉そうです、「ひとりぼっちにさせてしまい、ごめんね。」「自分も味方になってあげたいけど、今度は自分が仲間外しにされちゃうかもって心配だった。」「知らないふりをしていたほうが、仲間と一緒にいれる」そんなふうに思ってしまったんですね。

〈三つ目、でも、カララはクルルを助けに戻ってきました。どんな気持ちでもどってきたのでしょうか。〉それはきっと、クルルを大切な友だちだと思っていたから、見捨てられなかったし、クルルを助けなくてはと思ったからですよね。

このお話から、みんなに伝えたいことは、お友だち、つまり相手のことをいつも考えてくださいということ。周りに流されてしまうことがあるかもしれないけど、寂しそうな友だちや困っていたり、辛そうだったりしている友だちがいたら、勇気を出して、優しい心で、友だちに声をかけてほしいということ。そういうことが、友だちが元氣と笑顔を取り戻す力となるのです。

最後に、自分は友だちを悲しませるようなことはしない!と自分と約束してください。一人一人が約束できると、思いやりの心で友だちと接すれば、もっともっと旭ヶ丘小学校全員が笑顔で仲良しになれると思います(^o^)

# 学びの姿

児童は、教室での授業だけではなく、児童会活動や行事など様々な活動を通してたくさんの学びを重ねています。



1年遠足 ハイウェイアス



演劇鑑賞教室



3年親子クッキング



3年社会見学 郵便局



キラキラぱーく読み聞かせ



4年社会見学 くりび7千曲



金管バンド 相森中スプリングコンサートに出演



6年修学旅行

6年生の修学旅行は、小学校生活の中で大きな思い出となる行事でした。

- 一日目(6/8) 国立科学博物館・築地市場・劇団四季「アラジン」鑑賞・お台場・東京タワー
- 二日目(6/9) 国会議事堂・東京ドームシティーアトラクションズ・東京スカイツリー

自転車クラブの2チームが子供自転車大会に参加しました。Aチームが2位となり、7月に行われる県大会に出場します。



子供自転車須高大会